

第五十八回 江戸川乱歩賞決定及び受賞者記者会見のお知らせ

日本推理作家協会主催の第五十八回「江戸川乱歩賞」は、本日（五月十四日）午後四時より開催された最終選考委員会において、本年度の受賞作を左記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

（後援／講談社・フジテレビジョン）

選考委員／石田衣良・京極夏彦・桐野夏生・今野敏・東野圭吾（敬称略）

場 所／帝国ホテル「楓の間」

記

◎第五十八回江戸川乱歩賞

江戸川乱歩像及び副賞 賞金1000万円

「カラマーズフの兄妹」

高野 史緒氏

今回の江戸川乱歩賞応募作品は三六七編に達し、九八編が第一次予選を通過、さらに第二次予選で二二編が選ばれ、最終候補作五編の中から右記の作品が決まりました。受賞作は八月上旬、講談社より刊行されます。なお、賞贈呈式は九月十三日（木）、帝国ホテルにおいて行われます。

※ 十五日（火）は、記者会見を催しますので、皆さま各位のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

受賞者記者会見

- | | | | |
|-------|---|-------------|---------------|
| 一、日 時 | ・ | 五月十五日（火） | 午後二時～三時 |
| 一、場 所 | ・ | 講談社 N二〇一会議室 | |
| 一、出席者 | ・ | 受賞者 | 高野 史緒氏 |
| | | 東野 圭吾 氏 | （日本推理作家協会理事長） |

日本推理作家協会

講談社 広報室 Tel〇三（五三九五）三四一〇

高野 史緒（たかの・ふみお）

昭和四一年九月一日（四五歳）

学歴 茨城大学人文学部卒業、お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了

筆歴 第六回日本ファンタジーノベル大賞最終選考作「ムジカ・マキーナ」（新潮社）
でデビュー。著作に「カント・アンジェリコ」（講談社）、「アイオーン」（早川書
房）、「赤い星」（早川書房）など

出身地 茨城県

住所 東京都板橋区

※住所及び電話番号については非公開とさせていただきます。

取材のためのご連絡につきましては、

講談社 文芸図書第二出版部

堀 〈TEL 090-2633-2302〉まで

お問い合わせをお願いいたします。

《受賞作品概要》

「カラマーズフの兄妹」

ドストエフスキーが実現できなかった『カラマーズフの兄弟』の第二部を代わりに執筆する、という形で描かれる本作は、ドストエフスキーが描いた父殺し事件の真相に迫るミステリーだ。ドストエフスキーの「第一部」では、裁判ではドミートリーが有罪判決を受けたが、スメルジャコフが実行犯、イワンが道義的な犯人であるとするのが一般的な読み方だが、真犯人はこれらの人物ではない。しかもそのことは第一部を詳細に読み、検討すれば明らかなのだ。作品に書かれている本当の犯人とその動機とは。その真相には、この物語が今書かれるべき現代性がある——そんな序文とともに本作は幕を開ける。

舞台は一八八七年八月の南ロシア、「第一部」でフォードル・カラマーズフが殺害された事件から十三年が経っている。無一文から成り上がった地主、フォードル・カラマーズフは女にだらしなく教養もなく、人間的な魅力に欠ける人物であったが蓄財には長けていた。二度の結婚で公に三人の子どもをもうけたものの、長男のドミートリー、次男のイワンと三男のアレクセイはいずれも幼くして母を亡くして親戚に引き取られ、父親との縁が薄いまま成長した。事件の一年前、まずアレクセイが修道院に入るために帰省する。次いで軍隊で放埒な生活を送ったドミートリーが、金ほしさに父のもとを訪れ、次男のイワンはドミートリーの頼みに応じて父と長兄の間を取り持つべくやってくる。こうして家族が一堂に会したそのとき、フォードルが自宅で撲殺される。犯人として逮捕されたドミートリーはシベリアの鉱山に送られた後、作業中の落盤事故が元で世を去った。三男のアレクセイは修道院を去って教師となり、地元の名士として穏やかに暮らしている。次男のイワンはモスクワで内務省に入省し、凶悪事件の捜査で頭角を現した。そしていま、イワンは父の殺人事件を再捜査すべく、事件以来はじめて帰省したのだった。